

2019 年度実施概要

学校名

宮城県気仙沼市立気仙沼小学校

採択活動名

「海との共生について考えよう」

取り組みの概要

本校は市の中心部に位置し、気仙沼湾に面した浜見山の高台にある。学区内には気仙沼魚市場や水産加工の関連会社、大型冷蔵庫等の施設がある。児童が地域の企業やそこで働く方々と連携しながら海洋に関する学びを深めるには大変適している教育環境にある。海洋教育の実践においては、「海と生きる」を復興スローガンに掲げる気仙沼市において、地域の先人が古くから向き合ってきた「海」を教材として扱うことは、環境や産業、観光にとどまらず、「海洋と人間とのつながり」という関係から防災や文化、歴史といった観点からも地域を見つめることで、生涯に渡って学び続けようとする学習意欲の構築と主体的・対話的で深い学びの実現につながると考える。

今年度は海洋教育実践の柱となる単元を各学年に設け、実践のキーワードを「つなぐ」と設定し、各学年の教科・領域と海洋教育との関連を持たせながら教科・領域を横断して学びが展開できるような場を設定し、地域と連携したカリキュラム・マネジメントを図りながら全学年で実践を積み重ねてきた。

2年生は生活科「どきどきわくわくまちたんけん」の活動で自分が疑問に思ったことや気付きからお店でやってみたいことや知りたいことを「もっとなかよしまちたんけん」の際に質問したり、体験したりした。まとめの活動では、分かったことの中から海と関わることに焦点を当て、次年度の学習との関連付けを行った。

3年生は総合的な学習の時間「海を生かした地域の産業」の単元で、気仙沼魚市場や水産卸売会社の見学を通して気仙沼に水揚げされる魚や流通のしくみについて学んだ。

4年生は「防災マップをつくろう ～防災・減災のためにできること～」の単元で防災マップ作りのために町歩きと施設訪問を行い、東日本大震災時の状況や避難経路などについて説明を受けた。町歩きを通して、学区内の災害時に役立つ設備や安全な避難場所などについて学んだ。

5年生は、「海と人との共生について考えよう」の単元で、牡蠣の養殖場や地元の水産加工会社、造船場の見学を通して、自分たちの生活や水産業の課題を見付け、テーマを設定し校内で発表した。

6年生は、「気仙沼復興プロジェクト ～私のまち 未来の気仙沼」の単元において、気仙沼市復興スローガン「海と生きる」に込められた思いに触れさせ、児童に市民としての考え方や実践力・行動力を養い、これまで積み重ねてきた学びの視点から気仙沼市の現状を見つめ直し、個々の課題を探究することを通して、気仙沼市の未来を見据えて生きていこうとする心を育成してきた。

気仙沼市の復興状況や「水産業」「食文化」「経済」などの様々な分野に視点を向け、そこから課題を見だし、探究的に調べる活動を行った。未来の気仙沼市が発展し、活気ある町になるよう個々の解決策を提案した。代表者は「海洋サミット in ひろの」「第7回全国海洋教育サミット」で発表した。

活動中の写真



【避難経路の説明を受ける様子】

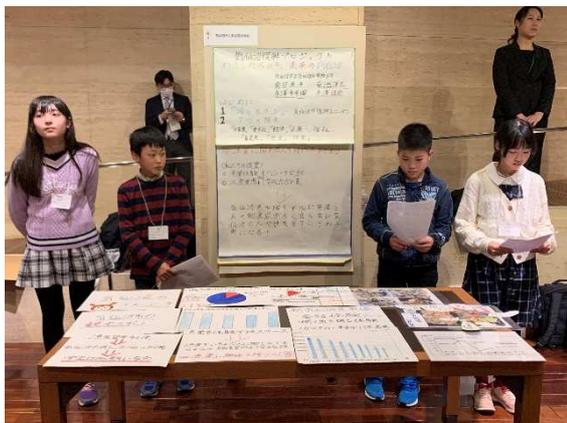
第4学年では、防災マップ作りのために町歩きと施設訪問を行った。内ノ脇地区の宮脇書店やホテル一景閣では、東日本大震災時の状況や避難経路などのお話を聞くことができた。町歩きを通して、校区にある災害時に役立つ物や安全な避難場所などについて確認することができた。



【海洋教育サミット in ひろのでの様子】

第6学年では、「気仙沼復興プロジェクト」～わたしたちの町 未来の気仙沼～の単元のもと、現在の気仙沼市の復興の状況を見つめ、自分の気付きから、テーマを設定し、解決するための提案を探究してきた。

まとめた考えは、「海洋サミット in ひろの」で発表した。



【第7回全国サミットで発表する様子】

2学期までの調べ活動及び、発表を受け、更に探究活動を行った。

個々のテーマに基づいて学年でミニ発表会を開いた。

今回は、その中から4名の児童が①「水産業」②「食文化」③「観光」の3つのテーマについて「第7回全国サミット」で発表した。

実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

- | |
|--|
| 1. 「どきどきわくわくまちたんけん」(2年 生活科) |
| 2. 「海を生かした地域の産業」(3年 総合的な学習の時間) |
| 3. 「防災マップをつくろう ～防災・減災のためにできること～」(4年 総合的な学習の時間) |
| 4. 「海と人との共生について考えよう」(5年 総合的な学習の時間) |
| 5. 「気仙沼復興プロジェクト わたしたちの町 未来の気仙沼」(6年 総合的な学習の時間) |